

2月21日の「学校づくりフォーラム」では家庭学習の問題が話し合われました。生徒や先生方の発言から、家庭学習ノートが主に3つの役割をもって取り組まれていると考えました。

- ①主に基礎的な分野の「定着・習熟」をめざす
- ②興味・関心に基づいた「探究」の機会
- ③先生の書き込みをもとにした先生と生徒の交流

この3つはどれも学習にとっては大切な要素だと思います。ノートが多様な役割をもって発展していくと良いと思います。特に②の探究的なものに関しては発表の機会・場を作って共有していくのも良いと思います。

ただ、臨時休業が続くなかでこれらの役割は難しくなっているのではないのでしょうか？

「3つの密」を避けながら、私達が大切にしてきた「密」を発展させるには？ 先生と生徒、生徒同士、学校と保護者、学校と地域、先生同士

どこかの市長が「コロナのバカ！」とSNSで叫んで話題になりましたが、私は「教育や学校は密だらけだ！」と叫びたい気持ちです。文科省はアクティブラーニングの展開の「対話的」の部分は学習期の後半にまわすように示唆していますが、＜前半：一方的、後半：対話的＞などというアクティブラーニングはどこかおかしいと思います。

「ピンチをチャンスに！」という視点から2つの事を考えたいと思います。

1. 文明の利器を駆使して私達が大切にしてきた「密」を何とか確保・発展させる

長期臨時休業により学校の授業ができないなか、ネットでのオンライン授業が着目されています。今回の休校でびくともしなかったのは既にオンライン化を完了していたインターナショナルスクールでした。しかし全ての生徒が自宅にネット環境を持てる学校ばかりではないし、本校でも無理です。しかしもし、全生徒がスマホを使える環境ならば何ができるか？などを考えてみました。私が担当する専攻科2年生「教育学」の授業では、メーリングリストを構築して授業資料の配付やレポート提出をしようと思います。授業で何回か視聴する＜動画（約25分もの）＞はUSBやSDカード(microを含む)などにコピーし、生徒の再生メディアに応じて配布することも考えています。

2. 生徒を学びの主人公に育てる機会に反転させる

授業ができない分を課題で補わざるをえないのはやむをえないことでしょう。しかし、生徒が自由に設計できる時間が多くあるこの機会を、本来の学びの姿(=生徒が学びの主人公であり学校や私達はその学びを支援する立場)にしていくためのチャンスにできないのでしょうか。

課題を与えられて、それができあがれば「勉強は終わり！」という他者に依存しきった学習スタイルでは学びの主人公にはなれません。自分が学習のために使える時間を、＜習熟につながるルーティン＞＜時間を気にせずまとまった探究にあてる時間＞＜挑んでみたい検定の勉強＞＜将来的な進路に関わる学習＞などにどう振り分けるのか考えてみる(つまり1～2週間単位の「学習計画表」を作る)機会にできないでしょうか。すべての生徒がすぐに取り組みないかも知れませんが、＜学びの主人公になるための「学習計画表づくり」＞をできる生徒から運動化していければと思います。

すでに先生方は工夫をこらして「密」を確保し発展させるてだてを講じていると思います。学習ノートの使い方、学級通信のネタ集めや作成、配布、個々の生徒への寄り添いとクラスでの共有など。その交流を旺盛にしてこの「コロナ禍」をチャンスに反転させましょう。